

●深まる秋と色づく木々。

朝夕が寒い季節になりました。風邪をひかないよう、温かい格好で公園散歩を楽しんでください。

●秋になると、葉っぱが赤や黄色に色づくのはなぜだろう？

●クロロフィル（緑色成分）の分解

・気温が低下することにより、葉の中にある「クロロフィル」と呼ばれる緑色の成分が分解されます。

●アントシアニン（赤色成分）の発生

・夜間の気温が8～10℃を下回ると葉と茎をつなぐ部分に層が形成されて、光合成によって作られた糖が葉の外に移動できずに葉内に蓄積します。これを合成するための材料として、「アントシアニン」と呼ばれる赤色の色素が合成されます。つまり、上記の緑色成分が減って、赤色成分が増えるので、葉が赤く見えるのです。



ナンキンハゼの葉は、緑色から色鮮やかな赤色に変化します。



①ナンキンハゼ

●カロチノイド（黄色成分）の存在

・葉には、もともと「カロチノイド」という黄色い成分があります。気温が下がることにより、上記の緑色成分が減り、黄色成分であるカロチノイドが残ります。つまり、緑色が減り、黄色の割合が相対的に多くなることで葉が黄色く見えるという仕組みです。



カツラの葉は、緑色から黄色へと変化します。



②カツラ

★普段は緑色だった葉っぱも、葉の種類や気温の変化によって、緑色・赤色・黄色のバランスが変わり、色鮮やかに変化するのです。

●紅葉する木々のご紹介

この時期は、赤色、黄色、オレンジ色など、色とりどりの紅葉が楽しめます。



③イチョウ



④イロハモミジ



⑥トウタンツツシ



⑥モミジバフウ



⑦コリノキ

●色鮮やかな紅葉を楽しみながら、秋の公園を散歩してみたいかがでしょうか。

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



●ひっそりと咲く、白くて素朴なお茶の花

●民家園南側に広がる茶畑。5月ごろに摘み取りを行い、お茶まつりなど、古河公方公園の風景としてとても人気スポットです。秋深まるこの時期、茶畑は別の顔を見せます。茶畑よく覗いてみると、小ぶりでも白い、かわいらしい花が咲いているのがわかります。通常、茶葉の新芽への養分を多くするために、お茶の花が咲く前のつぼみの時期に摘み取り作業をしてしまいます。きれいな花なのに、あまり有名にならないのはそういう理由があるからかもしれません。



③チャノキ

お茶の正式名称は、チャノキ。ツバキ科ツバキ属の常緑樹です。花の咲く時期は、10月～11月下旬です。散歩がてら、茶畑を覗いてみてはいかがでしょうか。